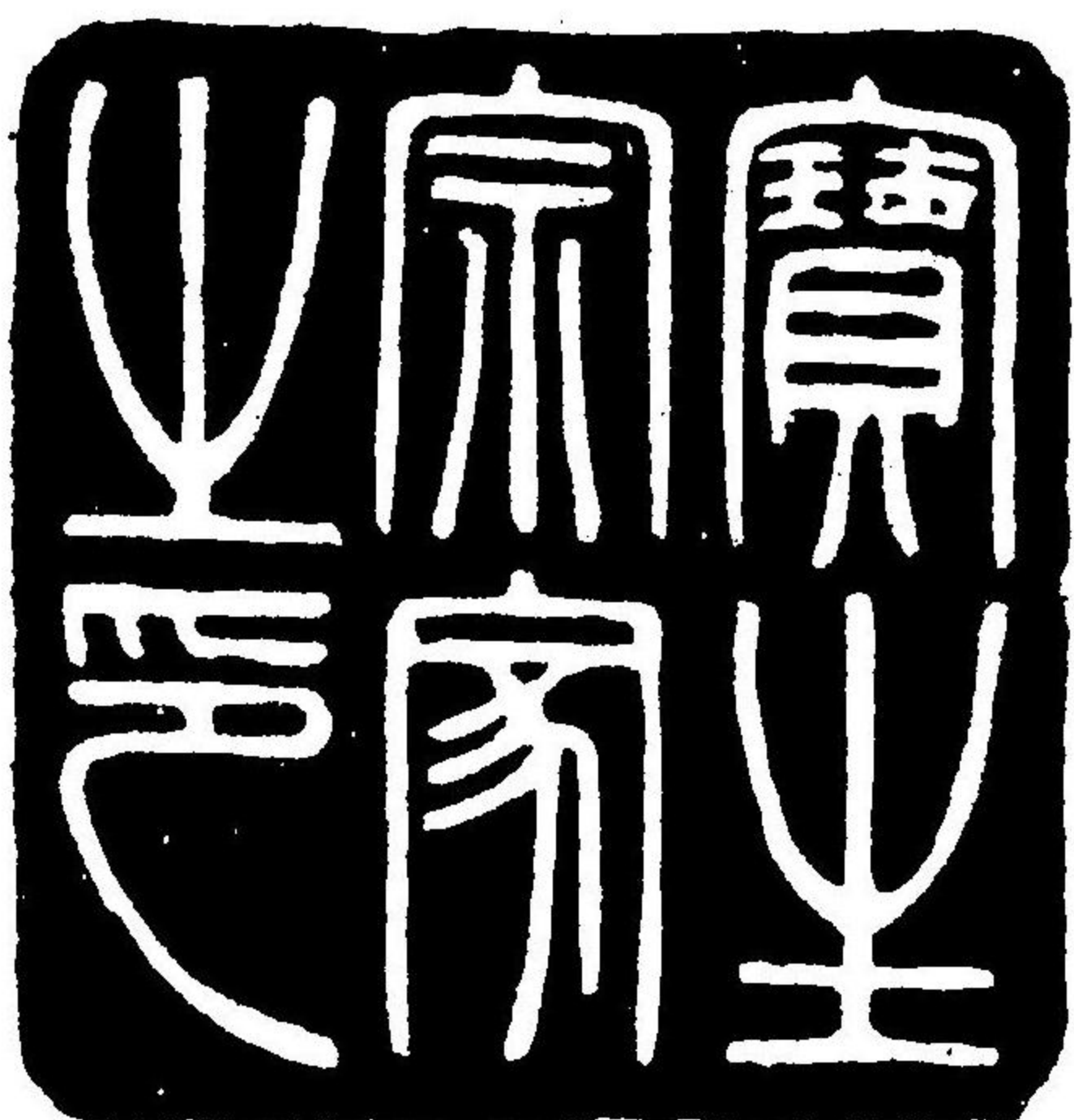


249
1

水 學 子 歸 來
不 知 處 在 何 方
井 田



明治
44. 7. 5
丙寅

第

水室

河も濁りて其の味も
長閑なり 相見たる哉

山乃院おはせたり下也我は

後丹後の國九世戸ふり院

山下向道ありて日たより名を授

水乃玉乃花は調子もあつちやく
調子

いふは日影の光る人なほあつちやく

あつちやくのあつちやくのあつちやく

あつちやくのあつちやくのあつちやく

あつちやくのあつちやくのあつちやく

信も年ふり持たる水乃おの信

御おののあつちやくのあつちやくのあつちやく
いふ始あつちやくのあつちやくのあつちやく
より春夏あつちやくのあつちやくのあつちやく
あつちやくのあつちやくのあつちやくのあつちやく
野乃つ村乃あつちやくのあつちやくのあつちやく
頃も水乃あつちやくのあつちやくのあつちやく

河原女乃被_レ移_レカ_レル_レハ
學_レは_レ幸_レの_レ一_レ條_レに_レ記_レす_レ電
乃_レ西_レの_レ津_レ路_レを_レ歩_レか_レる_レの_レ事_レ
雪_レの_レ水_レを_レ浴_レび_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ
お_レま_レは_レ紅_レの_レ衣_レを_レ着_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ
て_レ遊_レぶ_レ事_レを_レ記_レす_レ事_レ

お_レま_レは_レ球_レを_レ借_レ借_レし_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ

球_レの_レ拍_レは_レ借_レ借_レし_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ
お_レま_レは_レ白_レの_レ衣_レを_レ着_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ
お_レま_レは_レ赤_レの_レ衣_レを_レ着_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ
お_レま_レは_レ白_レの_レ衣_レを_レ着_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ
お_レま_レは_レ赤_レの_レ衣_レを_レ着_レて_レ遊_レぶ_レ事_レ

平_レ賀_レの_レ津_レ路_レを_レ歩_レか_レる_レの_レ事_レ

ふち〜
く〜
と〜
み〜
やま〜
ふ〜

は〜
な〜
お〜
ち〜
お〜
又〜

借遣乃ちしるあてらつる
孫のちるあてらつる
人のちるあてらつる
山海乃ち相乃ち出主身王女の思
徳あり唐古長くひる帝
都遠くふ盛ちるひる日る

まゝしるあてらつる
陽徳折ちるあてらつる
雨露乃ち相あるひるあてらつる
日あてらつるあてらつる
あてらつるあてらつる
あてらつるあてらつる
あてらつるあてらつる

みさちの... 樂... なる... なる...

籾の... 舞... なる... なる...

後上
打上

水室の... 個... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

水... なる... なる...

小石川の源流を尋ねて
磯原の池にたどり着く
池のほとりには古く
からある寺がある
寺の境内には
石の塔が立ち
上り空を仰ぐ
塔の周りには
木々が茂り
静かなる
空気が
流れている
塔の影が
池面に
映り
写る

小石川の源流を尋ねて
磯原の池にたどり着く
池のほとりには古く
からある寺がある
寺の境内には
石の塔が立ち
上り空を仰ぐ
塔の周りには
木々が茂り
静かなる
空気が
流れている
塔の影が
池面に
映り
写る

點板

第一
真しやうの
心算の
算

都方より来る信より我來

東國より来る信より我來

東國修心より来る信より我來

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of six lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of six lines of cursive script. The text includes several lines with vertical dotted lines, possibly indicating a list or a specific format.

海の底に沈むる花の影を
又も見るに似たりと
傳へてはなれぬと
傳へてはなれぬと
傳へてはなれぬと
傳へてはなれぬと
傳へてはなれぬと
傳へてはなれぬと

初めにいふことが
いふことがいふことが
いふことがいふことが
いふことがいふことが
いふことがいふことが
いふことがいふことが
いふことがいふことが
いふことがいふことが

乃の給はるは人海に
一々一々一々一々

此の故の事は其の事
一々一々一々一々

公の事
一々一々一々一々
一々一々一々一々

公の事
一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々

一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々

一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々
一々一々一々一々

昔は信じてゐるに母は年暮るに
も家々へ行くや何れ作らぬ
下は子人の時をばあからばあ
あかた人教の信を
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ

針と糸は又等しくあつた
おとくへはあからばあ
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ
あからばあの中へあからばあ

傳ツケ山ツケ家ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ心ツケのツケ御ツケ使ツケのツケ

本ツケのツケ國ツケのツケ九ツケ命ツケ加ツケのツケ命ツケ

國ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

とツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

がツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

のツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

目ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

扱ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

ちツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

のツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

のツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

兄ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケのツケ御ツケ子ツケ

Handwritten text in Arabic script, likely a list or index, with vertical lines separating columns. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols, possibly representing names or titles. The columns are separated by vertical lines, and there are some markings at the end of each line, possibly indicating page numbers or section markers.

Handwritten text in Arabic script, continuing the list or index from the previous page. The text is written in a cursive style and includes various characters and symbols, possibly representing names or titles. The columns are separated by vertical lines, and there are some markings at the end of each line, possibly indicating page numbers or section markers.

ていゝとて、
秘術を操るは、
鬼神ありし中、
ちや、
か、
五、

ていゝとて、
秘術を操るは、
鬼神ありし中、
ちや、
か、
五、

Handwritten musical notation on the right page, consisting of six staves of music with various notes and rests.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of six staves of music with various notes and rests. The notation includes some Latin characters such as 'A', 'C', and 'T' interspersed with the musical notes.

たしむる間日暮のしつは天は暮れ
清事ふしへ入法名ふしつとふと向
大後堂のおるくうは後乃金祿
しあるよりぬりの程ふおれはつ前せ
契印一都道者た安とたり金祿
たふたふとなふる日とる都道

者ふくうの會はははははは
存さるる法免あふふふふふ
くよふふふ一解ちふふ終ふ法中
あふふふふふふ甲ふ十二終
ふふふふふふ^甲督十二終
去餘の勢百終二百終ふふ

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

ふらふら^{シカ}が程々申八都の者^ウの

都^ウの者^ウの

毛阿りきり又ま判官に武蔵
公に義経を申
まの御解まかおる密はも阿り
まの御解まかおる密はも阿り
も今たなぬおのり
事みちのさく君を

申つて後志願成就
たの御解まかおる密はも阿り

草子

書

佛子... 我... 言... 法...
 寺... 人... 心... 法... 心... 法...
 國... 清... 寺... 心... 意... 心... 法...
 真... 鴉... 枯... 木... 心... 法... 心... 法...

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines of dense, cursive writing.

解法乃曰院を孫孫の後也今以
を何知乃程みくいぞ ^可 昔平
ある ^可 申す学を平禪師の曰院
傳 ^可 道 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可 可 ^可
と ^可 又 ^可 時 ^可 なる ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
と ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
傳 ^可 道 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可

捨む ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
あ ^可 ち ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
と ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
あ ^可 ち ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
と ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
あ ^可 ち ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
と ^可 なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可
なる ^可 事 ^可 の ^可 事 ^可 なる ^可 事 ^可 也 ^可

我々もいふ人ありてはちかき事なり

正しく教へしは正しく教へしなり

師の白院ありては師の事なり

ふまき平禪師の僧ありては相傳入

ぬも其平禪師の事なりと云ふ乃

國は其平禪師の事なりと云ふ

等々ありては其の事なり

人ありては其の事なり

まも言ひては其の事なり

独轂を雁賓別也其故も日也

るも言ひては其の事なり

みりては其の事なり

石上精女水音阿沙一海

くまよる風ふたを海にさる

増たてたてなまなまなま

新たてなまなまなまなま

あまのこころをなまなまなま

るまのこころをなまなまなま

なまなまなまなまなまなま

願ふ者己満足あまのこころなまなま

虎のこころをなまなまなま

なまなまなまなまなまなま

くまよる風ふたを海にさる

なまなまなまなまなまなま

和琴の筆をもちては海をのりて
聖と奏する事と勢年樂を
今の時をくぐりてあつて
吾れはあつてまゝに
うへにまゝに持てて寺の
法をいふは教の
法をいふは教の

乃を指す事の中に入る事
賢くすればこそ
たつたは
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを
おのれを

上

おぼろのしほりおぼろのしほり

我の心からおぼろのしほりおぼろ

ておぼろのしほりおぼろのしほり

いおぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

おぼろのしほりおぼろのしほり

第下
禮之再拜早苗の上
乃

は

ふ

音トシテのハタキのチノヤア

ち

海チノヤアのチノヤアのチノヤア

の

地チノヤアのチノヤアのチノヤア

音チノヤアのチノヤアのチノヤア

の

海チノヤアのチノヤアのチノヤア

ち

24.9
1

著作權限有

寬政十一年三月初版
嘉永六年五月再版
明治二十六年七月改訂三版
明治三十五年八月改訂四版
明治四十三年六月增訂五版
明治四十四年六月廿五日增訂六版印刷
明治四十四年七月一日發行

著作者 故 寶生太夫

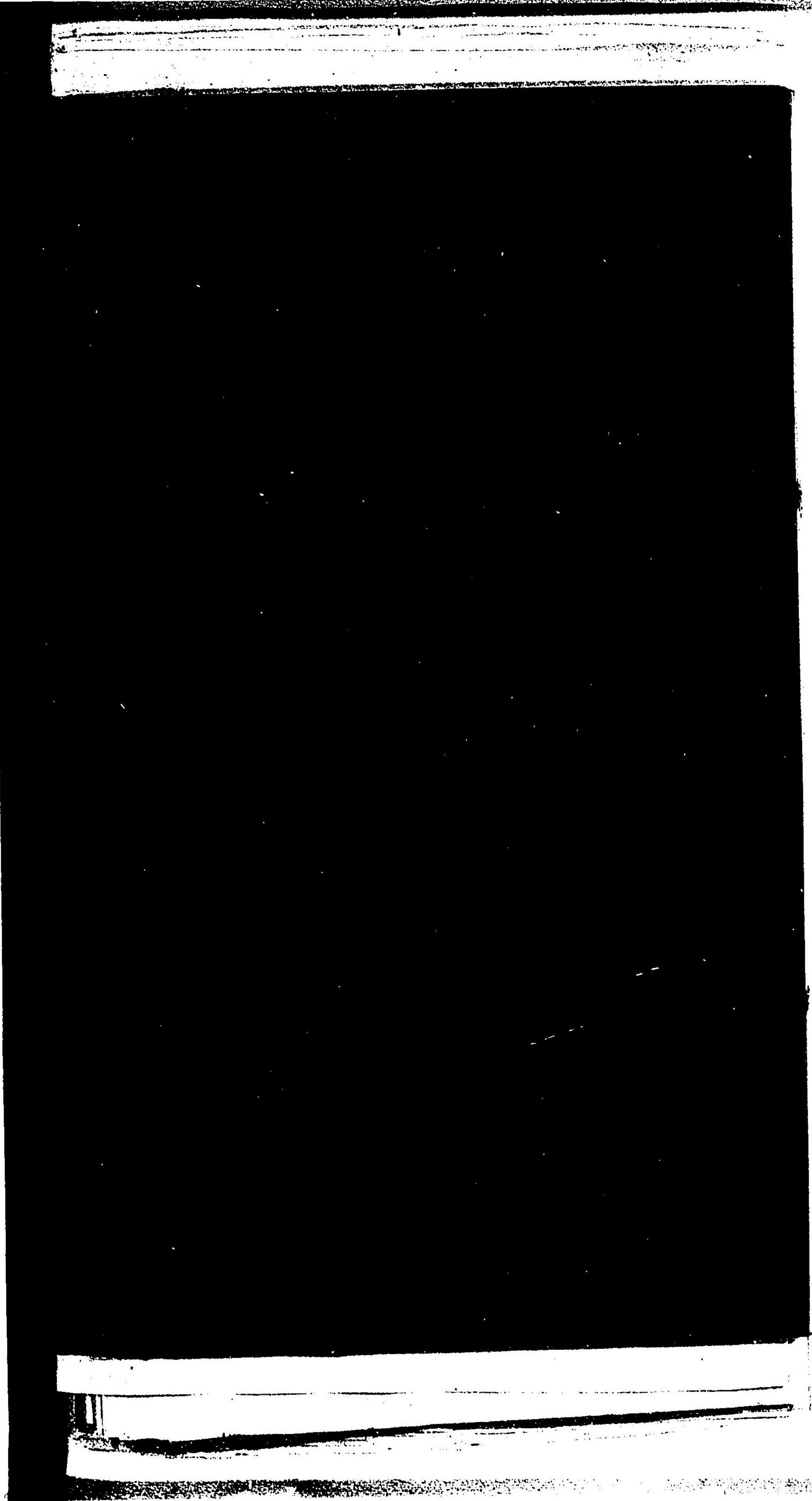
相續者 校訂者 寶生九郎

發行兼 印刷者 江島伊兵衛

發行所 梶屋謡曲書肆

東京市深川區吉水町七番地
東京市日本橋區通四丁目八番地
東京市日本橋區通四丁目八番地

[Redacted header text]



[Redacted footer text]